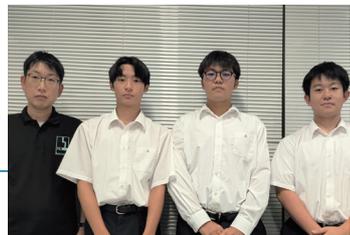


優秀賞

水鏡庵 歴史の息づく水盤と喫茶去の交流空間

栃木県 | 栃木県立宇都宮工業高等学校 選手 / 1年生3名



本提案は、「町の和室」というテーマのもと、宇都宮の歴史や都市構造を丁寧に読み解き、建築として再編集しようとする姿勢が評価できます。赤門通りの成り立ちや、かつての水路の記憶、二荒山神社の門前町としての文脈を水盤と茶室という象徴的な空間装置に重ね合わせ、敷地全体を「迎え入れる場」として構成している点が印象的です。

住棟を現代版町家、カフェ棟を現代版長屋門として対置し、その間に中庭と水盤を据える構成は、私的な居住と公共的な交流を明確に分節しながらも、視線や動線を通して緩やかにつなげています。特に通り庭を軸とした住棟の構成や、個室に坪庭を設けることで、閉じた空間の中にも外部性を取り込もうとする工夫は、日本住宅の空間原理をよく理解した上での提案だと感じました。

また、カフェ棟を街に対して開放的に配置し、フリースペースを介してワークショップやイベントに対応できる計画は、ウォークアブルなまちづくりという都市的要請にも応えています。

一方で、建物の間取りそのものは画一的な構成の居室が並んでいるシンプルなもの、ここにも一工夫欲しいと感じました。また、提案書内の模型写真の画角やサイズを選択が、十分に建物の魅力を伝



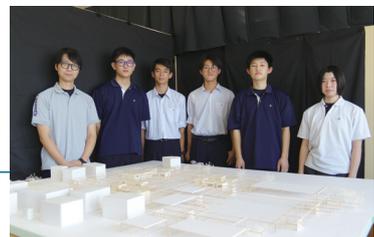
えられていない点も、改善点として考えられます。

総じて、歴史・都市・建築を一体的に捉え、「和」という多義的な概念を空間として具現化した魅力的な提案です。今後もより社会に根差した建築提案へと発展していくことを期待します。入賞おめでとうございます。(吉田浩司)

優秀賞

灯り・翳り・薫り ~ふるさとは和室のまち~

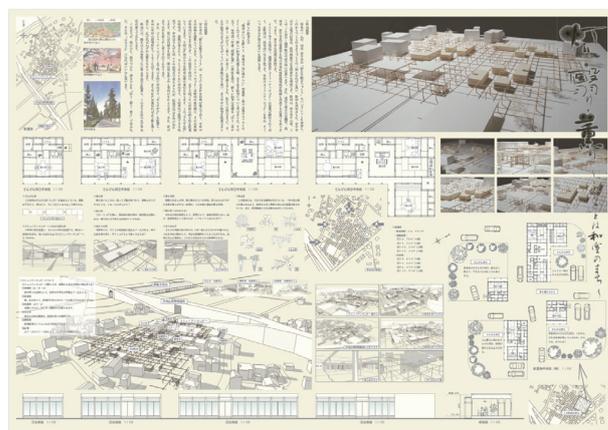
群馬県 | 群馬県立高崎工業高等学校 選手 / 2年生4名、1年生1名



本提案「灯り・翳り・薫り」は、建築空間を構成する要素を視覚だけでなく、光の強弱や陰影、さらには匂いといった感覚的なレイヤーまで拡張して捉えようとする意欲的な試みであり、非常に印象的です。単に形態や機能を整理するのではなく、人が空間の中で「どのように感じ、記憶するか」に焦点を当てている点が、この提案の大きな魅力だと思います。

特に「灯り」による空間の段階的な演出や、「翳り」を積極的に取り込むことで生まれる奥行きは、日本建築が培ってきた陰影の美意識を現代的に読み替えたものとして評価できます。また、「薫り」という目に見えない要素を建築の構成条件として扱っている点は、五感に訴える建築の可能性を素直に探ろうとする姿勢が感じられ、設計コンセプトとして一貫性があります。

一方で、柱と桁が並ぶ空間にある住宅の提案がシンプルかつ従来の間取りの域を脱していない点と、住宅と住宅の間の空間の提案が乏しい点が伸び代と感じました。また、それぞれの感覚要素が具体的にどのような空間や素材、設備、環境条件によって成立しているのか、もう一步踏み込んだ説明が加わると、より魅力的な提案になると思います。



総じて、本作品は建築を「感じる装置」として捉える視点、空間体験の質を重視する姿勢がよく表れた提案となっています。今後は、感覚的な魅力と空間構造的な裏付けを結びつけることで、より深みのある建築表現へと発展していくことを期待します。入賞おめでとうございます。(吉田浩司)

優秀賞

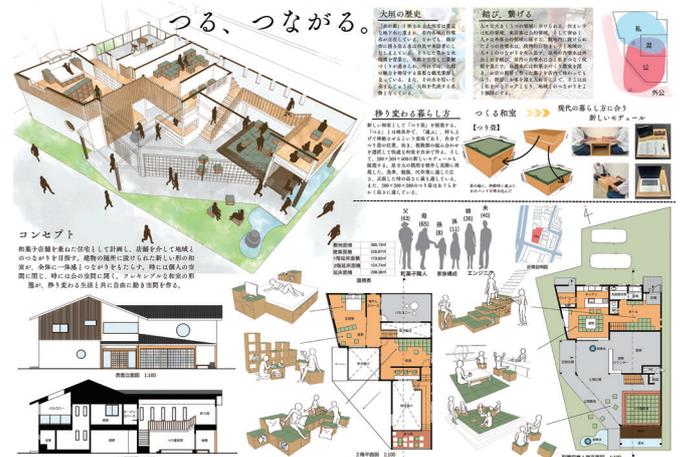
つる、つながる。

岐阜県 | 岐阜工業高等専門学校 選手 / 3年生3名



本提案は、幅500mm×奥行500mm×高さ400mmの上部畳敷きの持ち運べ、つり畳と呼ぶ箱をつくり、自由に組み合わせて、快適な空間を自分たちでつくる新しい和室のつくり方です。計画地は岐阜県大垣市で、市内に多く点在する自噴水を店舗内に有する和菓子の製造・販売店で、3世代が暮らす店舗併用住宅という設定です。店舗の前面は通りに向かって大きく開き土間床で繋がっていますが、小上がりに向かって外部から内部にかけて、客が自由に動かせるつり畳を幾つか配し、客が自ら居場所をつくることを誘っています。店舗1階小上がりは、あまり動かさないつり畳を集めてつくった和室ですが、その中の一つを抜いて掘りごたつのように足を伸ばして座れる席をつくったり、その上につり畳を置いてテーブルとして使われること等が想定されています。

また、吹抜けや通りを見下ろす店舗2階の昇り間は、洋間仕立ての中に動かして使われるつり畳が配置されていて、お菓子屋さんの空間づくりに遊び心を添えています。店舗と接している住宅部分の玄関ホール、居間、食事室、寝室、書斎の随所に動かしながら使うつり畳が楽しく使われることが想定されています。店舗と格子等で一定の独立性を確保しながらも、楽しげな住宅部分の新しい和室の様



子を垣間見せるかのようにつながられていることも大変興味深く見えます。コンセプトにある建物の随所に設けられたつり畳による新しい和室が全体に一体感とつながりをもたらすことが感じられます。今後は更に通りやまちへもつなげる手法に進むことを期待して優秀賞を贈ります。(清水耕一郎)

優秀賞

和室で広がる地域と交流 ~つながる人々~

和歌山県 | 和歌山県立和歌山工業高等学校 選手 / 3年生8名



和歌山市南部の名勝和歌浦にある「あしべ屋妹背別荘」をリノベーションするという提案です。あしべ屋妹背別荘は絶景の妹背山という島の中にあり、かつては明治天皇や文化人が逗留するための料理旅館であり歴史ある場所でしたが現在は廃業しています。また立地としては潮の満ちひきにより姿を変える和歌浦の絶景に囲まれています。「自然の景観を大事にしつつ昔の知恵と工夫によって住みやすくきれいな家づくりをしていたことがわかった」とあり、建物から庭木についてまで、とても丁寧な調査が行われています。

これまでは皇族や文化人などの限られた人が利用していたこの建物を、地域や観光客など誰にでも開かれた和室として、ゲストハウスと学習塾を経営する家族の住まいを提案しています。広い座敷は学習塾や地域の人たちが集う場として、中央の座敷はゲストハウスとして観光客と共有する場とし、玄関の奥を住まいとした提案です。元の建物を大きくは改造していなかったため、なるべく今の形で活用することがベストであると判断したのかなと想像しました。玄関奥の土間や台所、お風呂などの水廻りも床の段差処理を工夫しながら地



域の人や観光客とのコミュニティスペースとしての活用の提案があっても面白かったのではないかと思います。

(石貫方子)

優秀賞

広がる和室 ～絵本により内にも外にも広がる和室～

熊本県 | 熊本高等専門学校 選手 / 3年生1名、1年生1名



本提案は、畳の原料となるいぐさの生産地である熊本県八代市の中心地、本町アーケードに面した計画地に、水害で被災したいぐさ生産者が畳の良さをもっと多くの人に知ってもらえるような畳敷きのたたみ図書館を併設した住宅を建てる設定です。アーケード側には畳敷きの読み聞かせルームがあり、カフェを挟んで奥には畳敷きのたたみ図書館があります。読み聞かせ開催時には、中に本が入れられ各参加者に貸されている移動畳が軒下に集まって、畳敷きの部屋が拡大します。

また、たたみ図書館は、奥に2階の住宅ゾーンに続く大階段があり、その蹴込み部分も本棚として活用されていて、その両側にも本棚が設置され、本に囲まれた魅力的な空間となっていることが評価されました。畳敷き部分を多く採り入れ、そこに座ってリラックスした状態で本が読める空間も評価されますが、例えば畳を垂直な壁に使って空間を柔らかく包むようなことや、いぐさをそのまま壁や天井に使うなどいろいろな使い方の実験や提案の場とすること、またいぐさを使ったアート展示や小物の販売の場とすることなども望まれます。畳敷きの空間をつくって見てもらうだけでなく、畳と接する機会を増やし、



多くの人を畳の魅力にひきつけるような企画・行事の提案に裏付けられた空間構成が望まれます。ともあれ、畳敷きによる居心地の良い図書館は、地域に暮らす方々の交流拠点となる魅力は大きく、優秀賞を贈ります。
(清水耕一郎)